

★米国は他国の民主主義を破壊した自分の薬を飲んでいる＝アラン・ネイン

1月7日放送の米独立系メディア「デモクラシー・ナウ」は、米連邦議会議事堂占拠事件についての、調査ジャーナリストのアラン・ネイン氏の見解を次のように伝えています。

エイミー・グッドマン（司会） 米国議会議事堂の襲撃に世界の指導者たちは驚愕しています。国連のグテレス事務総長は、米国の政治指導者に対し、支持者たちに暴力を控えるようよびかけるよう求めました。英国、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、インド、日本、フランス、ドイツ、NATO、欧州理事会の首脳は、ジョー・バイデンへの平和的な政権移行を求めました。

ベネズエラ政府は声明の中で、政治の二極化と暴力の連鎖を非難し、「この不幸なエピソードで、米国は侵略政策で他の国々で起こしたことを自ら経験している」とのべました。

ここで様々な賞を受賞されている調査ジャーナリストのアラン・ネインさんに加わっていただきます。

アランさん、昨日米国議会で起こったことは白人至上主義者の暴動ですし、多くの人が国内テロリストと呼んでいいと思います。そして一連邦議会議事堂の警察、彼らのなかには暴徒と一緒に自撮りするものもいたようですが、そういうものと、私たちがラファイエット公園で見ている市民の抗議集会やBLM（黒人の人種差別反対運動）の活動家や、アフリカ系アメリカ人への対応で違いがありますが、どう思いますか。

アラン・ネイン トランプは大統領選挙の日の夜に開票作業を止めることができず、全権掌握のチャンスを失いました。ところが昨日、彼には街頭の暴徒がついていること、そして法執行機関の多くが傍観して暴動を放置することができることが示されました。どうしてかといえば、警察の多くが彼らと同じ仲間だと思っているからなのです。

議会議事堂は、外部から群衆に包囲されていましたが、同時に、よく考えれば、内部からも包囲されてきました。議会では、約3分の1（の勢力）が大統領選挙を廃止する考えをもてあそんでいるのです。

バイデン次期大統領は、「これは米国ではない」と言いました。しかし、実際には、これは米国の支配者の多くが抱いている深い伝統と一致しているのです。投票の制限は建国の指導者たちが常に求めていたことだし、今日の米国の右翼にとっては政治的な生き残りの唯一の希望です。また現在の支配層が持つ基本的な原則は「選挙は神聖にして侵さざるべきものではない」というものなのです。

外国の選挙は、米国はどんな選挙も覆すことができます。これまですべての米政権は一貫して、たゆまずに（外国で）クーデターを支援してきました。オバマ前大統領とケリー国務長官は、エジプト軍が選挙で選出された大統領をクーデターで倒したことを認め、ケリー国務長官は民主主義を回復するための行動だと述べました。米国はオバマ政権の時、ホンジュラスのセラヤ大統領追放のクーデターを支持しました。そしてトランプはケリー統合参謀本部議長とともに、そのあとの選挙で、投票数で勝利していたナスラ候補を覆す「選挙の剽窃」を支援したのです。

最近では、トランプはボリビアでのクーデターを後押ししエボ・モラレス大統領を追放しました。その後、世界で2番目に裕福な1840億ドル相当の資産をもつイーロン・マスク（電気自動車テスラ会長）は7月24日にツイートして「私たちは誰でも望む人をクーデターで倒せる。それで対処してください」といいました。これはまさに米外交政策のかなり適格な表明だと思いますが、しかし今、ある意味でトランプがその外交政策を自国に持ち帰っているのです。

ネルミーン・シェイク（司会） アランさん、世界中の指導者からの反応、広範な非難についてどう思われますか。特に目立つコメントの1つは、ドイツのマース外相のツイートです。ナチ党が権力掌握の口実にした1933年のドイツ国会議事堂放火事件にふれて「暴力行為は扇動から起こる。かつてはドイツ国会議事堂の階段で、そして今は米連邦議会議事堂」と述べています。

アラン・ネイン 米国の伝統的支配層が海外でテロによって民間人を殺すことをいとわなかったのは事実です。石油を押さえ、政治権力をおさえるためですが、基本的には気まぐれでもやってきた。（イラクに侵攻した）ジョージ・W・ブッシュ大統領はその代表的な例でした。

しかし、トランプは独特の側面をもたらしました。彼はユニークな能力を持っていて、アメリカの白人社会に獣を解き放ち、人々の魂に手を突っ込んで、最悪の側面を引き出しました。彼はまた、ファシスト的な雰囲気を作り出す能力を持っ

ています。彼はアメリカのエリート階級の産物です。彼自身がアメリカのオリガルキ（寡頭制）ですが、歴代大統領が冷酷な米権力を柔らかく、友好的な顔をさせてきたのとは違ったアプローチを取っています。ある意味で彼は、多くの点で、みずからの行動と話し方を通して、アメリカの体制の正体を暴露しているようなものだと思います。

彼が扇動した運動は独特の脅威であり、止めなければなりません。同時に、ファシストに反対する人々が、これに対抗するために支配層を擁護したり、権威主義的措置を支持するのは、大きな間違いだと思います。法律が今どのように書き直されようとしているのか想像してみてください。治安対策がどのように書き直されるか。D.C.と連邦議会議事堂の近くでデモを行うことは一層難しくなることはほぼ確実です。合法的な運動、たとえばMLMのような運動が、街頭に出かけることがより難しくなるのです。規制は確実に強まります。言論への規制も、フェイスブックやツイッターなどの新たに権限を与えられた企業の検閲を通じて、そしておそらく政府自体を通じても強まることは確実です。

私たちは目をこらして明確にする必要があります。トランプ主義者たちに「反逆の思想」を盗用させてはなりません。不正に対する反逆は良いことです。問題は米国のシステムが本当に不当で殺人的であるということです。しかし、彼らは民主主義や寛容、組織の民主化空間のチャンスといった米国システムの良い側面に反抗しています。彼らは人種主義や狂気、リーダーへの盲目的な服従といった悪の立場にたって反抗しているのです。私たちは注意を払い、彼らだけでなく、米国の主要な権力であり、現在もアメリカの貧しい人々や労働者階級を骨抜きにしている伝統的支配層にも立ち向かわなければなりません。ファシスト勢力に抵抗するのと同じように、(伝統的支配層)にも反抗しなければなりません。両方を同時に行うのは簡単ではありませんが、必要なのです。

ネルミーン・シェイク アランさん、トランプ大統領は憲法修正 25 条の発動を抑え込めば、今後ほぼ 2 週間は権力を握っています。この 13 日間に何が起こるか、彼が何をするかについて、あなたが抱いている懸念について話していただけますか？

アラン・ネイン アメリカの支配層、特に民間の報道機関の深い伝統の 1 つは、米大統領が新しい戦争を始めるたびに旗の周りに結集することです。したがって、トランプが望んで軍隊を動かすことができれば、たとえば、イランを爆撃するようなことをすることができます。実際、彼は最近イランに向けて軍艦を送り、

気まぐれでもその気になる可能性に備えています。彼は以前には、法執行当局にバイデンやヒラリー・クリントンの逮捕などを求めていました。これは成し遂げられませんでした。ご存じのように、明らかに彼ができることはまだたくさんあります。

しかし、トランプが去っても、イーロン・マスクはまだそこにいます。まだお金を持っています。アメリカのオリガルキはまだいます。米国の治安機関は存在して、トランプの暴徒が米国議会議事堂にやったことを世界中の議会議事堂に行う準備ができています。

私が言わなければならないことですが、米国の人々をひどく揺さぶった昨日の議会議事堂への攻撃は、ラテンアメリカ、アジア、アフリカ、中東、その他での民主運動や選挙で選ばれた政権に対して米国が何年にもわたって行ってきた作戦に比べれば何ほどのことでもありません。ほんの数日前に、米国議会は国防総省と海外の特殊作戦により多額の資金を投入する国防権限法を圧倒的な差で可決しました。その他の措置を通じて、CIAの作戦を支援し、基本的には、命令が下ればいつでも侵入して民主主義を転覆する準備を整えています。ですからアメリカ人は今、ある意味で自分の薬をマイルドに味わっているのです。私たちはそのことを認識し、闘い、やめさせなければなりません。(以上)

(翻訳 田中靖宏)